



# 低温・積雪による 農作物等被害防止対策

令和5年12月19日  
南丹農業改良普及センター

気象庁の1か月予報（12月14日現在）では12月16日～12月22日にかけて気温が平年よりかなり低くなり、近畿日本海側では降雪量がかなり多くなる可能性があるとして予想されています。

今後の低温・積雪に備え、各品目の低温・積雪による農作物等被害防止対策をまとめましたので、農作物やハウスの被害防止に努めましょう。

## 1 作物（麦類）

- ・積雪後、融雪による湿害を防止するため、直交する排水溝を繋ぎ、水が確実に排水口へ流れるようにしましょう。

## 2 施設（野菜・花）

### ①低温対策・保温の方法

- ・すきま風対策をしておきましょう。

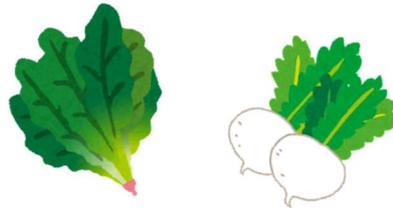
例：ビニールの破れや戸口の修理、入り口やサイドにビニール（内張り）を垂らす等

- ・被覆資材のべたがけやトンネルがけで作物を保温しましょう。ただし、被覆すると湿気がこもり病気が発生しやすくなります。昼間は被覆をめくり、換気しましょう。
- ・保温を気にするあまりハウスをずっと締め切っていると、ハウス内が過湿状態になり、病気が発生しやすくなります。ハウス内の露を乾かし、病気を予防するため、晴れた日はハウスサイドの換気を行いましょう。

（換気時間は、その日の天気・気温と作物の濡れ具合で調整しましょう。）

### ②ハウスの雪害対策（別紙）

- ・ハウス中央部に補強用の支柱を立てましょう。地面と支柱との接地面に板を敷きます。
- ・筋交い等の骨材がしっかり固定されているか点検をしましょう。
- ・「園芸ハウス台風対策マニュアル 第6章 雪害対策」も参考に対策を実施しましょう。



「園芸ハウス台風対策マニュアル 第6章 雪害対策」はこちらから！

下記 URL から検索できます！

<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>



裏面に続く

### 3 露地野菜

- ・被覆資材のべたがけやトンネルがけで作物の保温・防霜対策をしましょう。  
ただし、被覆すると湿気がこもり病気が発生しやすくなります。昼間は被覆をめくり、換気するようにしましょう。孔あきビニールと不織布を組み合わせると、換気の手間が省けます。

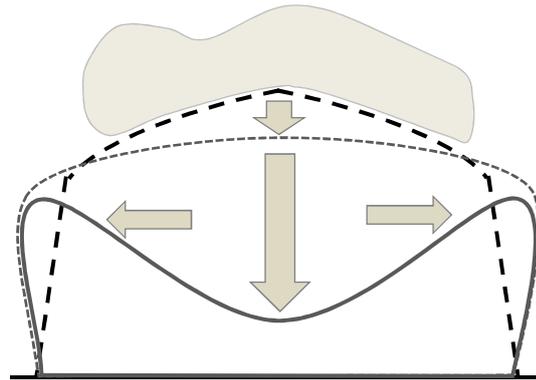
### 4 果樹

- ・カンキツ類やイチジク等寒さに弱い樹種は、凍結防止のため不織布等で樹全体を覆いましょう。
- ・落葉果樹（モモ、ナシ、ブドウ等）では、できるだけ早くせん定を済ませましょう。

# ハウスの雪害対策

## ○パイプハウスの雪害の例

真上からの圧迫による変形



## (1) 事前の対策(ハウスの点検・補強)

### ○支柱の設置

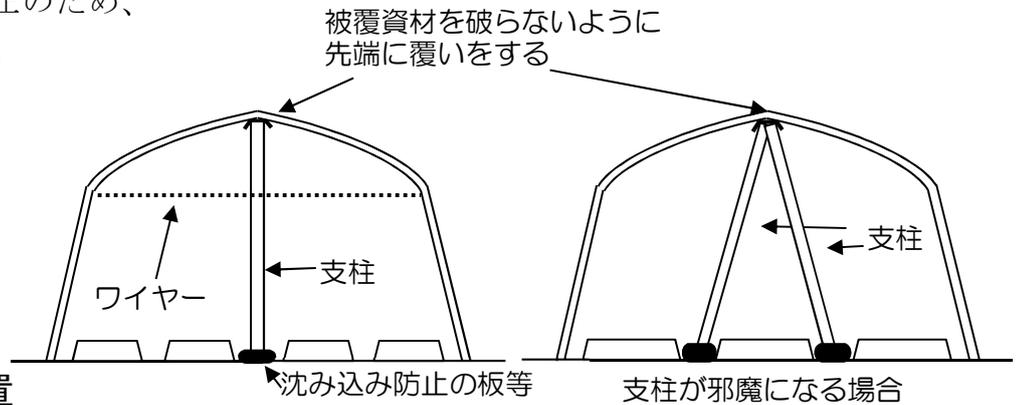
右図のように補強用の支柱(間伐材、31.8mm 径パイプなど)を2～5 m間隔で設置。その際、沈み込み防止のため、支柱の下に板を敷く。

### ○ハウス全体の穴や破れの補修

⇒ハウス内の保温

### ○ハウスに平行してワイヤーを設置

⇒雪の重みでパイプが外側に開くのを防ぐ

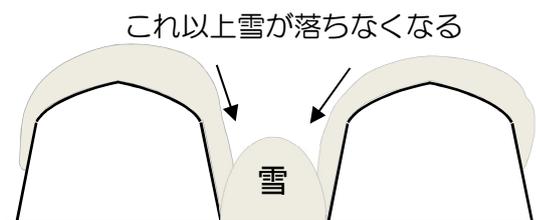


## (2) 降雪時、降雪後の対策 ⇒ 早めに雪が落ちるようにする

### ○ハウスを密閉して冷気を入れない

ハウス屋根部分の気温を4℃程度にするのが理想。雪の降る前から保温。作物が入っていない空きハウスは温度が上がりにくいので早めから保温をし、注意して管理する。ストーブの活用も考える。

### ○落下した雪の取り除き



ハウスの屋根から落下した雪が積み重なり、屋根の雪とつながると、屋根の雪が落ちなくなります。

特にハウスとハウスの間は雪がたまりやすいので早めに取り除きましょう。

※ ハウスの上に雪がたくさん積もっている時は、倒壊のおそれがあるため、ハウスの中に入るのは危険です。